

梅白し まことに白く 新しく 星野立子



副校長 片野 嘉昭

先日、テレビを見ていたところ、バスケットボール男子Bリーグ1部（B1）の三遠フェニックスに特別指定選手として入団することになった、福岡第一高の河村勇輝（18）選手の入団会見が目に入ってきました。身長172センチとバスケットボール選手としては小柄ながら、卓越したパスの技術とスピードを武器に、昨年の全国高校選手権で同校の2連覇に貢献した、高校ナンバーワンプレイヤーと称される選手です。

河村選手は記者の質問を受け、「自信がなかったら挑戦はしない。その自信はB1でプレーが通用する自信ではなくて、どんな壁にぶつかっても挑戦し続ける自信です」と答えていました。緊張しながらも、はっきりと自分の言葉で、「プレーが通用する自信ではなく、挑戦し続ける自信がある」と言っている姿に、これまでの彼の生き方と謙虚さが表れていて、好感を持ちました。

失敗しても挑戦し続ける気持ち、これは成功する人に共通していることだと思います。

史上最高のバスケットボール選手ともいわれる、マイケル・ジョーダンの生涯得点率は5割、言い換えれば彼がプロとして放ったシュートの半分は「失敗」に終わったことになります。

1998年に70本のホームランを放ったマーク・マグワイア選手もその年に155回も三振をしています。彼は現役生活の中で457本もホームランを打っていますが、三振も1259回しています。つまり三振の数はホームランのほぼ3倍に相当します。

もちろん、スポーツの世界だけではなく芸能界で活躍する人やマスコミに登場するパーソナリティーも、失敗と無縁ではないことは皆さんが知っていることです。

成功とは大部分が粘り強さの問題であり、挑戦をし続け、自分の能力を開発し続け、途中で軌道修正していけば、成功に近づいていきます。

このことは、どんな場面でも共通しているのではないかと思います。たとえ成功につながらなかったとしても、それは無駄なことではありません。それが間違っていたことに気付くことができ、また次の道に向かうことができるからです。

「どんな事にでも目標を持って挑戦し続ける気持ちが大切」このことを河村選手の姿を見て改めて思うと同時に、彼がこれからも挑戦し続け、成長していく姿が想像できるとても良い入団会見でした。

原中学校の生徒はもちろんのことですが、これからの時代を担う若い力に大きく期待が膨らんでいます。

【原中生の良い話】

原中生数人が下校している時、近くにいた男性が急に倒れてしまわれたそうです。

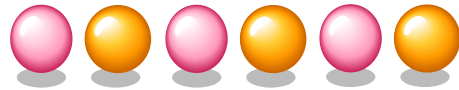
一人は学校へ先生を呼ぶために走り、一人は部活動で使用しているボードに「助けて」と書いて近くの大人に助けを求め、その他の人は男性に付き添っていたということです。

その後も到着した救急隊員にしっかり状況を説明し、男性は病院に無事搬送されました。

男性を助けるために皆で協力して行動した原中生を本当に素晴らしいと思うと同時に、その対応力に驚かされました。



1年 職業インタビュー



1月24日(金)、1年生の行事として「職業インタビュー」が行われました。これは、原中学校のキャリア学習の一環として行われます。2年生の職場体験、3年生の進路学習へとつながります。今年の職業インタビューは、次の10種類のコースで行われました。システムエンジニア、保育士、調理師、デザイナー、薬剤師、JAXA、獣医師、消防士、公務員、メンタルトレーナーです。中でも今年新に開設されたコースとしてJAXAがあります。火星と木星の間にある小惑星に探査機を送り込み、小惑星の成分の一部を日本に持ち帰ったのもJAXAの実績です。数学の中村先生の同級生でJAXAに勤めている方がおられたのが縁で、今回講師として来校していただきました。また、調理師コースでは大根の「かつらむき」の実演があり、紙のように薄い大根がトイレットペーパーのように長くつながっている様子は、「さすがプロ！」という腕前でした。

各コースの人数が限られているため、第一希望ではないコースになってしまった生徒もいます。ただし、これがきっかけとなって「こんな魅力的な職業があるんだ！」と今まで知らなかった世界が広がる可能性があります。どのコースでも今後の職業選択の参考となる貴重な話が聞けたのではないかと思います。次に講師の先生方の感想をいくつか紹介致します。

生徒の皆さんがとても熱心に聴いてくれました。おかげで緊張も和らぎました。生徒のみなさんに助けられました。ありがとうございました(保育士)。熱心にお話を聞いていただきました。敬語や話し方も丁寧な対応で、中学校1年生とは思えない素晴らしい生徒さんでした。最後には、消防士を目指したいと声をいただきとても嬉しかったです。本日はありがとうございました。(消防士) 生徒さん達がまじめに聞いてくれる姿にこちらが嬉しくなりました。少しでもお役に立っていればよいのですが。今後ともどうぞよろしくお願いいたします(公務員)。



(総合学習担当 今野 聡)

9組 市合同学芸会

1月22日（水）横浜市立中学校個別支援・特別支援学校合同学芸会が西公会堂で行われました。原中学校の個別支援学級は、今年も「パイレーツ・オブ・カリビアン」の打楽器演奏を行いました。3年生7名、2年生5名、1年生9名の21人による迫力ある演奏ができました。当日を迎えるまで、楽譜を読めなかったり、初めての楽器に戸惑ったりと本当に苦戦しました。音楽の時間やそれ以外の時間も使って、とにかく毎日毎日演奏の練習をしました。1月18日（土）の地域交流会で初めて地域の人に演奏を披露し、1月21日（火）に西公会堂でのリハーサルを経て、本番を迎えました。とっても力強い1年生の力で昨年よりもさらにスピードアップし、原曲のスピードに近い速度での演奏を披露できました。練習の時には、涙を流しながらも努力している子もいて学校という場所だけではなく、各家庭でも支援をさせていただいて本番の素晴らしい演奏ができました。海賊風の衣装に身を包み、自信をもって発表していた子どもたちの姿は、本当に感動を与えてくれました。9組最高！！（9組担任 今島麻由）

新入生オリエンテーション

2月8日（土）土曜授業の日、来年度新たに入学を迎える6年生とその保護者を対象にした「新入生オリエンテーション」を開催しました。

寒さ厳しい中にも晴天に恵まれたこの日、校内には普段にない活気が満ちていました。昇降口の外から戸惑いがちに覗き込む小学生の顔が二つ、三つ……。受付を済ませると安心した表情になって、校舎のあちこちへと散っていきます。一緒に来られた保護者の方も、近く中学生になるわが子の姿を思い浮かべて居られる様子。迎える側の中学生も心なしか、いつもより「お兄さん・お姉さんの顔」になっていました。

3校時の体験授業ではどの教室も和やかな雰囲気にもまれ、積極的に発言したり、真剣な面持ちで課題に取り組んだりする小学生たちの様子が見られました。この日アシスタントを務めた3年生の働きも素晴らしく、授業者からは感謝の声が多く聞かれました。

昼食を終え、希望者の部活動体験が始まりました。3年生からバトンを受け継いだ時にはやや不安げだった2年生、慣れない活動について行くのがやっとだった1年生。小学生に笑顔でやさしく教えている人がいる、小学生の力量を押し量りながらボールを打ってあげている人がいる。いつの間にか頼もしい「先輩」になっていたのですね。

私たちは、6年生の皆さんのご入学を楽しみにお待ちしております。

当日のスケジュール	
1校時	授業参観
2校時	保護者説明会
3校時	体験授業（国・社・数・理・英）
午後	部活動体験



平成2年度 横浜市立原中学校 第74回入学式
 4月6日（月）13：00～受付、13：30開式
 2月8日の資料は、中学校で配布しております。
 問合せ先：原中学校391-0461（副校長：片野）

（3年職員 太田直子、川本宏明）

剣道部

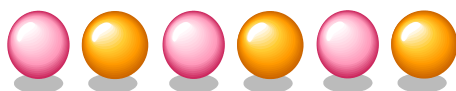
剣道部は現在2年生7名、1年生6名の計13名で活動しています。今季から対外試合を増やし、試合経験を多く重ねています。夏に行われる県大会に向け、日々稽古に励んでいます。

剣道部では、「自ら考え、行動にうつす」ことを大切にしています。顧問や講師の先生から全て教えてもらうのではなく、どうしてできないのか、どうやったらできるようになるかを自分で常に考えています。また、今年度より学校周辺の清掃活動も行っています。学校や地域への感謝と共に、“運”も味方にできるようにしています。ただ剣道で強くなって卒業するのではなく、将来の自分を見据えて人格の形成を目標にしています。

剣道は年々競技人口が減少しています。保護者の皆様や、地域の方々で剣道経験者の方がいらっしゃいましたら、ぜひ格技場をのぞいていただき、ご指導いただければ幸いです。（剣道部顧問 高山僚介）



地域交流会



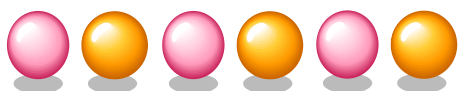
1月18日(土)に本校体育館にて、『MUSIC FESTA (地域交流会)』が盛大に開催されました。このイベントは学校・家庭・地域の連携事業の1つとして、三ツ境・阿久和北部・阿久和南部・宮沢・瀬谷第四の各連合自治会と、原小学校・三ツ境小学校・原中学校と各PTAが協力し、学校と家庭、地域が交流し、絆を深めるために毎年開催されています。

音楽交流を中心としたこのイベントには、原中学校個別支援級、原小学校特別合唱クラブ、三ツ境小学校特別合唱クラブ、原中学校合唱部、最後の出演になるチアリーディングチームAQUA、ダンスリパブリック、せやブラス&原中学校吹奏楽部の合同楽団が出演。どの団体も全力で素晴らしい発表を行ってくれました。交流会最後には毎年恒例の参加者全員による大合唱が行われ、地域で活躍する子どもたちと地域の方々との交流が深まりました。

『MUSIC FESTA (地域交流会)』は出演者以外の多くの方々によって支えられています。受付や喫茶コーナーは各連合自治会の民生委員の皆様、会場整理にはスポーツ推進委員と青少年指導員の皆様がいそいそボランティア生徒と一緒に担当してくださいました。今年度も、この会一番の目的である子どもたちと地域の方々、そして保護者の皆様、教職員との「顔の見える交流」「世代を超えた交流」ができました。ボランティアで参加した生徒に対して『本当にすばらしい生徒達だ』とお褒めの言葉をいただき、原中職員として非常に誇らしいものでした。今後も、学校、家庭、地域が連携し、子どもたちの健やかな成長を見守り、支えられたらと願っています。



(生徒指導専任 籠田 玄太)



厚生委員会

いつも原中学校厚生委員会のペットボトルキャップの回収にご協力いただきありがとうございます。先日、業者に引き渡しを行い、73358個ものキャップが回収されました。重量にして170キロ、回収分で作れるワクチンは85名分でした。



それだけではなく、回収したことで削減された二酸化炭素量は537キロになるそうです。皆様のご協力のおかげで多くの命を救えるだけでなく、環境保全へ貢献することができました。今後は、100名分のワクチンを目指して活動していきます。これからもご協力お願いいたします。



(厚生委員会担当 高山 僚介)